性的少数者の声 学校現場へ

岡山・自助グループが実態調査

学校で悩みを抱える性的少数者（LGBT）の実態を調べようと、自助グループ「プラウド岡山」が、県内在住・出身者をはじめとするLGBT当事者を対象としたアンケートを始めた。インターネットの専用サイトで31日まで受け付けており、調査結果は3月末に報告書にまとめ、県内の全ての小中学・高校に配布する。

LGBTへの理解を教員ら学校現場に深めてもらう狙い。市民協働事業として岡山市の補助を活用する。同グループによると、LGBTを対象にした調査は、少なくとも官民が連携する形では県内で初めて。

アンケートは16項目。匿名が前提で、小中学・高校時代を振り返った回答であれば年齢は問わない。性に関して違和感を感じ始めた時期、学校生活の中でつらかったこと、自傷行為や不登校の有無、望ましいと思う支援方法などを選択式、自由記述式で答える。

31日までネット受け付け

専用サイトはプラウド岡山のホームページ（proudokayama.com）からアクセスできる。問い合わせはプラウド岡山（proudokayama@gmail.com）。

プラウド岡山は2014年1月に発足し、当事者同士の交流会を定期開催している。代表のずっきーさんは「学生時代が一番生きづらかったと話すメンバーは多い。今も周囲に悩みを打ち明けられず苦しんでいる当事者の声を学校現場に届けたい」と話している。

（大橋洋平）